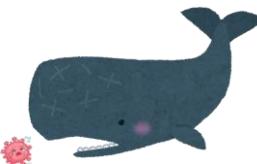




感染症週報



小笠原での流行状況

第2週（1月5日から1月11日まで）

父島 インフルエンザの報告がありました。

母島 特別な感染症の報告はありませんでした。

※ 5例以上発生時に実数報告としています

東京都全体での流行状況

第1週（12月29日～1月4日）

報告数の減少は年末年始の休診の影響と考えられます

【警報・注意報】

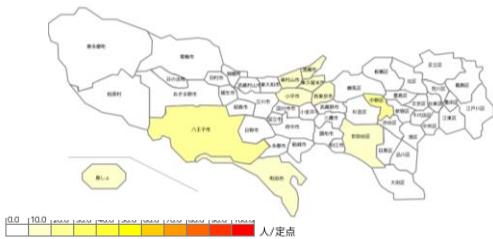
・インフルエンザ 警報レベル

(定点患者報告数 4.89)

東京都内における定点当たり患者報告数の年別推移



都内の保健所別定点当たり患者報告数(第50週)



【ピックアップ】

・感染性胃腸炎

(定点患者報告数 2.99)

・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

(定点患者報告数 0.76)

感染症メモ

インフルエンザの歴史 ~人類の戦い~

インフルエンザの夜明け

○紀元前412年頃★

ヒポクラテスが「ペリントスの咳」として集団感染を記録しました。

○1580年

記録に残る最初の世界規模のパンデミックが発生しました。

※19世紀にドイツの医学史家ヒルシュにより歴史的検証が行われました。

20世紀の三大パンデミック(世界的な大流行)

交通網の進歩や都市化による人口密度の増大が流行を加速させました。

○1918年：スペインかぜ(A/H1N1亞型)

人類史上最悪の感染症と言われています。世界人口の約3分の1が感染し、5,000万人以上が死亡しました。

○1957年：アジアかぜ(A/H2N2亞型)

中国の貴州省から発生し、世界で100万～400万人が死亡しました。

○1968年：香港かぜ(A/H3N2亞型)

香港から発生し、高齢者を中心大きな被害をもたらしました。現在も季節性として流行しています。

ウイルスの正体解明

○1938年

イギリスのスミスらによりヒト・インフルエンザウイルスの存在が確認される。★

○1940年代以降

B型ウイルスが発見され、ワクチンの開発が進み、予防対策が本格化しました。

近代の新たな脅威

○1997年：鳥インフルエンザ(H5N1)

香港でヒトへの感染が初めて確認され、世界に緊張が走りました。

○2009年：新型インフルエンザ(A/H1N1 pdm09)

メキシコから発生。21世紀初のパンデミックをWHOが宣言しました。

現代における位置づけ

現代ではA型(H1N1, H3N2)とB型が季節性インフルエンザとして定着しています。WHOを中心とした世界120か国以上の監視体制(GISRS)により、常にウイルスを回収・分析。流行株の予測、ワクチン製造、新型発生の24時間監視を世界規模で実施しています。

参考：WHO CDC 厚生労働省、国立感染症研究所 予防衛生協会ほか



インフルエンザ感染拡大防止のために

帰宅後は
手を
洗う人混みでは
マスク
着用こまめに
換気
する

マスクは他人への思いやりです

習慣にしよう！ 感染予防の基本は手洗い

東京都島しょ保健所小笠原出張所

